

あなたの想いをカタチにする みんなが輝く情報誌

発行 ● ながおか市民協働センター 市民協働センターPRオープニングイベント実行委員会

みんな
集まれ!

今回は
ウッドデッキで
開催します!

第5回

1日店主
のモ〜リ：
長岡

7.27  19:00～21:00〈2部構成〉
18:30～受付開始
●参加申し込み締切 7月24日(火)

食育を語ってのも～れ!

1 部 トークセッション

市民活動団体として、お店として、食育に関して行ってきた取り組みを事例を合わせて紹介していきます。

2部 オープン交流会(90分)

食育にちなんだ懐かしの給食メニュー他を提供します!

会場 ● オアール長岡交流ホールD
(長岡市大手通 1-4-10オアール長岡内)
※ご不明な方は市民協働センターまでお越しください。

店主 ● 荒木千賀子さん (NPO虹の輪交流会 代表)
佐藤毅純さん (吉田屋豆腐店)
佐藤久美子さん (食育指導士)

会費 ● チケット購入制⇒1,000円券(100円×10枚)
店主・基本メニューどちらにも利用可能

※チケットは追加購入も可能。
※学生のみチケット学割有
(初回購入分だけ半額の500円にて提供。2回目以降は通常料金。)

【飲 み 物】生ビール(400円/チケット4枚)
お茶(200円/チケット2枚)、
ノンアルコールビール(200円/チケット2枚)
おつまみ 月替(地域の特産物を提供)

【おつまみ】 当日発表

報告！

報告！

のも～れでつながりました！

4月の「のも～れ」参加がきっかけで、つながった三島ライトアップ実行委員会とビュアは～とさん、三島ライトアップ実行委員会主催の螢の鑑賞会（6月16日実施）にビュアは～とさんがボランティアで参加。子どもたちが竹灯籠を並べた上、うすそくに火をつけたりと大活躍しました。のも～れが双方にとって良き出会いの場となったようです。



ご一緒にいかが？

1日店主 のも一れ! 長岡とは

シティホールプラザ「アオーレ長岡」内の市民協働センターにおいて、毎月第4金曜日に月替わりの店主を迎えて開催する2部構成の交流イベントです。店主にまちづくりについての取り組みを聞き、店主おすすめの飲み物・食べ物をつまみながら参加者同士の交流を深めます。長岡をもっと住みよいまちにしたい、ご自身の活動をパワーアップさせたい、何か面白いことを始めたい、などなどどんな方でもお気軽にご参加ください。

【申込・問い合わせ先】 ながおか市民協働センター
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900 E-mail kyodo-c@ao-re.jp URL <http://nkyod.org>

Contents

特集① 長岡市市民活動団体助成事業

市民活動団体公開プレゼンテーション
申請団体紹介

特集② 災害にも強い地域コミュニティづくり

平成23年7月「新潟・福島豪雨」
地域団体での取り組み

【連載】月刊寄付白書 【連載】イベントレポート／長岡バル街 【連載】協働のまちづくりの潮流

自主的で公益的な活動を行う市民活動団体の事業を応援するため長岡市が実施している助成事業です。それぞれの市民団体の活動のステップに合わせて以下のコースを用意し、審査会を経て助成を行っています。この助成事業は平成16年から行っており、これまで93団体に助成を行っています。今年度は、33団体の申請があり、5月26日の公開審査会（2次審査）に24団体が進みました。

総額450万円で、以下のコースで助成を行います。

「はじめての一步」応援

事業のスタートアップや活動を軌道に乗せるために行う事業

- ① 若人コース（構成員が概ね25歳以下）
最大20万円【助成対象経費の全額】
- ② 一般コース
最大20万円【助成対象経費の80%以内】

「もっと!パワーアップ」応援

現在行っている事業の拡大や新規事業の立ち上げ
最大50万円【助成対象経費の80%以内】

公開審査会 ● 審査員



佐竹直子さん
NPO法人多世代交流館
になこ代表



上村靖司さん
長岡技術科学大学
准教授



渡辺仁さん
NPO法人
ながあか生活情報
交流ネットワーク 理事



恩田真弓さん
長岡タクシー株式会社
代表取締役社長



羽賀友信さん
NPO法人市民協働
ネットワーク長岡
代表理事



澤田雅浩さん
長岡造形大学 准教授



片桐真由美さん
株式会社ニュースライン
営業部



佐田直人さん
社団法人長岡青年会議所
副理事長

今年度の公開審査会はアオーレ長岡のナカドマで開催されました。これまでの公開審査会に比べ、多くの人たちに見てもらえる会場となりました。公開審査会は、2つのグループに分かれて行われ、各申請団体が7分という短い時間の中で、これから行う事業の内容や重要性を訴えました。各団体の発表は、実際にイベントで使う衣装を着て発表をしたり、



事業に使うものを実際に持ってきて見てもらうなど趣向を凝らしたものにしました。

また会場には賑わい屋台として、道の駅越後川口あぐりの里さんによる「あぐり汁」の振る舞いや、宮本村さんによる「ラーメン」、栃尾同住会さんによる「あげあげあげ」、もてなし処田麦山さんによる「スイーツ」などの出店があり、賑わいに一役買っていただきました。

Organization introduction 申請団体紹介

「はじめての一步」 応援(若人)



Technical Education Circle

児童を対象とした科学教育推進事業

長岡市内の児童に対して工学分野を中心とした科学技術への興味関心を引き起こすことを目的とした活動を行う。

【事業内容】主な事業として科学実験ショーと工作教室、工作展示イベントを行う。また、新たにインターネットを利用した学習コンテンツを作成し、より多くの児童たちが科学技術に触れてもらえるようにする。

問い合わせ/E-mail tec.nagaokaut@gmail.com



はな

はな展(グループ展)を通じた非日常の演出

長岡造形大学での授業課題や個人作品を太田地区にあるギャラリー竹山館や蓬平温泉旅館、太田コミュニティセンターなどで展示を行いながら展示期間中に地区住民との交流会や共同作品の作成を通して、若者の少ない地区に楽しい非日常をつくる。

【事業内容】

- ① はな展(グループ展)の開催(10月実施予定)
- ② 地区住民との交流会の実施
- ③ 地区住民や小中学生との共同作品の作成

問い合わせ/TEL 0258-23-2002
E-mail a103076@st.nagaoka-id.ac.jp



長岡技術科学大学 ボランティアサークル VOLT of NUTS 中山間地域支援及び農村活性化計画

長岡技術科学大学の学生ボランティアサークルとして中越地震以後、「自立支援」「地域主体」「継続性」の観念を持って中山間地域の復興支援活動等を行っている。前年度の東日本大震災により、ボランティアへの関心が例年なく高まった事で活動人数が倍以上に増えた。

【事業内容】中越地域の中山間地域及び農村の活性化のため、地域のイベント・稲作の支援を行い、地域住民の生活上の安全を維持するため、道の整備、除雪作業を行う。

問い合わせ/E-mail volt.nuts@gmail.com(田之上貴紀)



NisVoc

新潟県学生ボランティアシンポジウムin長岡

NisVocとは、新潟県学生ボランティア協会(Niigata Student Volunteer Combination)の略。新潟県における学生ボランティア活動の活性化の一助として、「団体の自立支援」「団体間の連携支援」「団体の情報発信の支援」を目的に活動を行う。

【事業内容】現在、新潟県内で活動している学生ボランティア団体の活動活性化の為の下地作りとして、ボランティアそのものについての理解を深め、団体同士の情報交換の礎となるためのシンポジウムを行う。(11月開催予定)

問い合わせ/TEL 090-9109-8309(大谷津孝太郎)
E-mail vdsaff@gmail.com



中越学生研究会「わかば会」 ふれて・感じて・伝えよう!二十村郷サマーセミナー

2008年5月に被災地を研究フィールドに活動を行っている学生有志で結成された。わかば会は月に1度程度集まり、お互いの研究について議論を深め、研究分野や大学の壁を超え、刺激し合える場を作る。

【事業内容】山古志地域や川口地域の一部(二十村郷)などを対象とした、学生のセミナーを開催する。そこでは、二十村郷の暮らしや文化を地域住民と関わりを持つことで触れて感じ、失われつつある、山の暮らしを見つめると共に、後世に残せるよう記録する。

問い合わせ/TEL 090-4674-0154(榎井将真)
E-mail nireishouma@gmail.com

公開プレゼンテーションのポイント!

市民とのコミュニケーションの場を作りました

公開プレゼンテーションでは、各団体から事業のPRポスターを制作した点、またナカドマという市民が行き交うオープンな場所で行った点が新たなきっかけでした。公開でプレゼンテーションを行う意味は、広く市民の皆さんにその活動を知ってもらい、どの活動に助成すべきかを考え、極論まで行けば、市民が助成する団体を選ぶということだと思っています。それは市が団体に助成するということを超え、市民団体と市民のコミュニケーションを生み、市民から支持・応援してもらえる市民団体を増やしていくことにつながり、それこそが市民活動の活性化だと思うのです。

市民活動団体と市の協働の取組を進めました

助成金に申請された事業は、行政の気づいていない課題へアプローチしている事業、市民の独創的な発想で地域を元気にする事業など、まさに市民が自分で気づき、行動を起こしているものです。この中には市としても、施策として取り上げる類のものや、市の仕事と協働することによって互いの活動が豊かになるものも多くあります。そのことから、公開プレゼンテーションにも関係各課から参加していただき、助成した後も市民協働センターで市との協働への取組が必要となるころにはその調整のお手伝いをしています。

特集① 長岡市市民活動団体助成事業



Organization introduction 申請団体紹介

「はじめの一步」 応援(一般)



悠久大学OB会

高齢者を対象とした生涯学習活動

一人ひとりがいつまでも好奇心を失うことなく、楽しく学び、多くの人と語り合って人生をより豊かにし、長寿をはたつとして生きていくことをねらいとしている。

【事業内容】悠久大学が10月で毎年終了するため、その後の活動はOB会としている。24年度は入会対象を限定せずに募集している。4月から11月まで15回高齢者にとって有意義な講話や体験活動等を行っている。

問い合わせ／TEL 0258-36-6908(会長／坂井定栄)
E-mail cosmos2@nct9.ne.jp



地域を 良く知ろう会

地域情報発信計画

寺泊地域の農村部が持つ、自然環境とその景観の保全に努力し、史跡や文化を知り、今現在の生産活動を知り、再認識し、その情報を発信し、生産活動を持続発展させる活動をする。

【事業内容】地域の景観や史跡・寺・神社さらに生産活動の情報を得、その情報をマップとして作成発行する。それらに係り活動している人たちの勉強会を開催する。

問い合わせ／TEL 0256-97-0400(伊藤文彌)



三島ライトアップ実行委員会

みしまの蛍をそっと見に行こう!(蛍鑑賞会)

竹灯籠によるライトアップを通じ、住民に地域の歴史を感じていただくとともに、三島地域を長岡市内外にアピールすることにより、今後の地域の発展に貢献することを目的とする。

【事業内容】6月16日(土)午後7時30分より9時まで、上岩井地域内に於いて蛍鑑賞会を実施する。会場までの長岡市道には現在街灯等の証明設備がないので、鑑賞される方の安全確保のために竹灯籠を足元灯として約1,000基配置する。蛍の光と竹灯籠の灯りの競演を来場者から楽しんでいただきながら、三島地域の環境保全の大切さを再確認したいただく。

問い合わせ／TEL 090-2214-4932(増岡栄久雄)
E-mail e.masuma@io.ocn.ne.jp

ナカドマで参加団体同士の交流会を行いました。みなさんプレゼンの緊張からようやく解放され、とてもなごやかな雰囲気の中、プレゼンの感想を語り合ったり、自己紹介したりとそれぞれが自分たちの活動をPRしていました。また、一人5枚のシールを持ち助成金プレゼン用に作ったポスターに投票し、参加者同士の活動を知ることができました。早速ポスターを見た市民のみなさんから、「活動に参加したい」「イベントに参加したい」という声が上がリ、今までとは違うアオーレ長岡での公開プレゼンテーションで交流の輪を広げることができました。



新潟ワイルドライフリサーチ

野生鳥獣害対策指導者育成のための研修会の実施

新潟県における野生鳥獣の生態調査と鳥獣被害対策の啓発活動、被害対策の指導を行って、新潟県における保護管理に貢献することを目的として活動をしている。

【事業内容】新潟県では、野生鳥獣害対策の専門家が不足し、農林水産業に被害が出ても鳥獣被害対策を指導する人材がなく、野生鳥獣の被害額は拡大の一途を辿っている。そこで、県内の農林水産被害を扱う行政担当者、鳥獣被害に困っている市民などを対象とし、野生鳥獣被害対策の指導者を育成するための研修会を実施する。

問い合わせ／TEL 0258-47-9442
E-mail umiushi@vos.nagaokaut.ac.jp



コロロを学ぶ会

発達障害児に関わる方のためのコロロ講演会

発達障害児(者)の療育法「コロロメソッド」を学び、実践し、情報交換を行うとともに、会員相互の親睦を図り、発達障害児(者)への理解を深め、療育することを目的に活動する。

【事業内容】広汎性発達障害や自閉症など、言語認知面に問題があるために、コミュニケーションがとりづらいい、集団参加や社会適応が難しい、などの困難をもつ子ども達のために、コロロ発達療育センター独自に開発した「コロロメソッドー発達を促すプログラム」を3回にわたり学ぶ。

問い合わせ／TEL 0258-36-9573
E-mail kumikochan-210@softbank.ne.jp

市民活動助成金 交流会



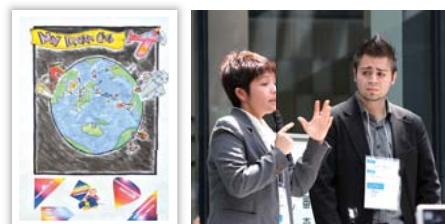
よもぎひら雪あかり実行委員会

よもぎひら雪あかり

イベント「よもぎひら雪あかり」を通じて地区住民と観光客の接点をつくるとともに太田地区のPRを行い地区の知名度を向上させることを目的とする。

【事業内容】○雪あかり写真展の開催／集落センター等で写真展を行い、旅館宿泊客が外へ出るきっかけをつくと共にと地区住民がつながる機会とする。○イベント「よもぎひら雪あかり」の実施／除雪の際に出来た雪壁を利用した雪灯籠を作成し、ライトアップを行う。会場の人区画や点火作業を住民から参加してもらい、また会場の設営を、太田小中学校や長岡造形大学と協力して行う。

問い合わせ／TEL 0258-23-2221(諏訪和彦)



My DREAM CLUB

Let's play and Learn together!!

就学前の子ども達が徐々に彼らが運動能力と知的能力の開発を支援する英語のゲームを学ぶことを奨励することを目指して活動している。

【事業内容】子ども達が創造的な遊びを通してスキルを開発することを助ける。両親の助けを借りて作成して、比較の概念を促進するためにゲームを開始します。教師と子ども達は、研究の経験を作成し、迅速な解決策を見つけるためにそれらを示します。

問い合わせ／TEL 0258-86-6589(林モニカ)
E-mail mabihasa@hotmail.com



一之貝応援団

一之貝マイ集落計画

都市部の人たちや集落出身者と一之貝集落との交流を通して、山の暮らしや棚田の魅力・課題を知ってもらう事、棚田保全や人材育成につなげる事を目的に活動を行う。

【事業内容】○田植えや稲刈りの交流を通して一之貝米の販売PR／一之貝で行う交流会だけでなく、都市部でお米の販売等のイベントを行うことで、出身者の人たちが参加できるきっかけを増やす。○地域づくりインターンの大学生の受入／夏と冬に大学生の地域づくりインターンの受入を行い、集落の活性化につなげる。

問い合わせ／TEL 090-3403-0153(浅野一茂)
E-mail kinsaku.des@nct9.ne.jp



川口をまじめに考える会

川口を愛さずにはいられない!住民主体の地域づくり

川口地域の持っている力、住民の力を結集し、行政や支援・連携する団体と協働しながら住民主体の持続的・発展的なまちづくりを推進することにより、安全で安心して住み続けられる、より元気で魅力ある川口地域の実現を図ることを目的とする。

【事業内容】きずなマラソン大作戦の実施や広報誌の発行、中学校総合学習の支援、企業サポートの募集などの事業を行い、川口に暮らす楽しみを住民みんなで認識する。地域づくりに関わる人の輪を広げ、愛さずにはいられない川口をつくる。

問い合わせ／TEL 0258-89-2990
E-mail kawaguchi.majime@gmail.com



「もっとパワーアップ」応援



股旅あい好会

長岡の高齢者を楽しませる。芸能・文化の伝承。

人様に喜んでいただくために、主に高齢者センター、老人ホーム等の施設でボランティアで演芸をする。

【事業内容】市内各高齢者センター、特別養護老人ホーム等の施設、敬老会、神社のお祭り等で、お芝居、新舞踊、民謡、カラオケ、マジックショー、ワンワンショー等を作り、高齢者から楽しんでもらい、一緒にお芝居や踊りをやる。与板高島座で2日間公演する。

問い合わせ／TEL 0258-27-2543 (葵新之介／青柳正)



トキめきロボクラブ

第1回 ロボコンインターナショナルカップ長岡大会

青少年の健全育成のため、ものづくりの作成教室や発表の大会や体験活動を通じ、地域市民の交流創出に貴よすことを目的とする。

【事業内容】ロボコンの普及によってものづくりや技術・科学に興味をもってもらうことを目的として11月11日(日)に開催する。作成教室参加人数100人以上を目標とし、大会参加100人程度を想定。個人戦・団体戦にて競技し、優勝・準優勝など表彰するが、参加することに意義のある市民ロボコンを目指す。

問い合わせ／TEL 090-3980-6354 (榊澤新一)
E-mail shorobo@i.softbank.jp



NPO法人にいがたKHJ「秋桜の会」 「ひきこもり」の支援

引きこもりの子どもを持つ親・家族の悩みや苦しみを解決するため、引きこもり問題に対する社会の理解、行政の支援、親同士の連携、子どもの自立等に関する事業を行い、もって社会全体の福祉の増進に寄与することを目的とする。

【事業内容】○「ひきこもりからの脱却」講演会の開催
○家族サークル会／月2回第2日曜、第3木曜開催を継続し、専任のカウンセラーとアドバイザーによる相談・助言を行う。○「ひきこもり」当事者の居場所の開催／月1回第1木曜開催を継続し、カウンセラーとアドバイザーによる支援を実施します。

問い合わせ／TEL 090-2974-0815 (長岡支部長／島崎誠治)
E-mail khj-niigata@amil.plala.or.jp



大地の会

立体地図・立体写真集「3Dで見る郷土の自然」(仮)の出版と普及

越路の大地に関わる学習や活動を通して、より深く地域を理解し、会員相互の親睦を深め合うと共に、地域づくりに貢献することを目的とする。

【事業内容】長岡地域の優れた自然や特徴的な地形について、航空写真や地形図を立体視できる画像とそれを解説した書籍を出版し、学校や図書館等に寄贈(配付)、また希望者に実費頒布する。多くの市民に大地の成り立ちと生活の関わりや守るべき自然について理解を深めてもらい、防災教育や環境教育にも役立てる。

問い合わせ／TEL 0258-27-1830 (渡辺文雄)
E-mail nabe@kza.biglobe.ne.jp



歴史・文化の会(神谷を知ってる会)

故きを温ね 新しきを知る—歴史・文化遺産の収集・保存・継承—

神谷地区にかかわる歴史・文化遺産を掘り起こし、検証のうえ開示すると共に会員及び地域住民の交流を深め、次世代の住民が地域の価値と誇りを共有し地域活性化に資することを目的とする。

【事業内容】歴史・文化遺産を掘り起こし検証の継続と、それを次世代に引き継ぐことを通じて地域のさらなる活性化を進める。また周辺地域と協力し交流をしながら市内全域にネットワークを構築し、長岡の都市部・農村・里山の素晴らしさと魅力を全国に向けてアピールする。

問い合わせ／TEL 080-5178-3423 (丸山信昭)
E-mail history@kamiya-sk.com



夏戸城跡保存会

「トキと自然の学習館」裏山を、自然環境学習の拠点として整備

平成3年旧夏戸小学校時に、小学校裏山の夏戸城跡を学習の場とした里山散策コースの整備及び自然環境学習会を実施したことを最初に、継続的な散策路整備、「夏戸城跡めぐりパンフレット」の作成を通して里山の保全活用に取り組んできた。

【事業内容】平成24年3月20日に、待望の「トキと自然の学習館」が「トキ分散飼育センター」の隣りに開館し、連日多くの市民や子ども達で賑わっている。これを受けて地元では学習館の裏山に有る、自然や動植物の宝庫である夏戸城跡散策路へ階段を整備して、長岡市の環境学習の拠点としてお手伝いする。

問い合わせ／TEL 0258-75-3679 (実行委員長／成田純一)



森のようちえん ふたばっこ

森のようちえん ふたばっこPR活動「森の一年・森と一年」

子どもたちが「自然」と「本物」に出会い、感じ、成長する姿を見守りながら野外自主保育活動を行うものとする。

【事業内容】森のようちえん「ふたばっこ」の活動とさらに多くの市民に知っていただき、又参加していただくために、行事の開催、日常の様子の開園日の設定(一年を通して)パンフレットやパネルによる写真での紹介をする。

問い合わせ／TEL 080-5651-1049 (古川貞子)
E-mail neccobocco.sadacco.200804@ezweb.ne.jp



NPO法人新潟の住まいを考える会 木工教室「チャレンジ!ハンドメイド!」(仮)

新潟県在住の一般市民および建築・営繕に携わる業者に対し、様々な住まいの在り方や健康で安全な住まいを気候風土を踏まえ基本知識や情報の提供・営繕保守の指導を行う。住まいの相談・調査等を行い、業者の資質向上と一般市民が安全かつ安心に暮らせる住環境の構築に寄与することを目的とする。

【事業内容】木の棚や椅子などの製作を通して、道具の安全な使い方の体験をしてもらう。またそれを基に被災時などで工夫・応用・代用へと発展できる事を知ってもらう。

問い合わせ／TEL 0258-41-5550
E-mail niigata.smile@gmail.com



摂田屋こへび隊

摂田屋こへび隊

摂田屋地区のまちおこしの住民活動を支援し、地域住民がまちおこしに興味を持ち自らまちおこしに参加できるようになること、住民による住民のためのまちおこし活動になることを目的とする。

【事業内容】地域住民がまちづくりを身近に感じ、興味を持ち、参加しやすい状況を生み出す。地域のこどもたち、お年寄り、様々な年配の方が主役となれる場をつくり、住民によるまちづくり活動になるようにする。具体的には次の事業を行う。鑑絵教室、あかりづくり教室、三国街道あかりイベント、おっここ市、扱い樽隊。

問い合わせ／TEL 080-5465-8597 (五十嵐隆宏)
E-mail a092003@st.nagaoka-id.ac.jp

申請団体のPRポスター展を行いました。

申請団体の皆さんに事業のPRをするポスターを模造紙1枚で作っていただきました。制作したポスターは、市民協働センターに公開審査会当日まで飾られ、当日はナカドマに掲示しました。またポスター展会場には、寄付箱も設置しポスターを見て、応援したい団体に寄付をすることもできました。寄付いただいた皆さんありがとうございました。



PRポスター作成講座を開催しました。マーカーの使い方から情報をどう1枚の模造紙に落とし込んでレイアウトするかを学び、実際に制作しました。



ケーブル
テレビで
活動PR
しました。



ケーブルテレビのNCT様のご協力で、申請団体のうち8団体が夕方のニュース番組「ほっと11(イレブン)」で紹介していただきました。テレビカメラの前で短い時間で事業の説明をするのはなかなか大変でしたが、素晴らしいPRができました。

特集② 災害にも強い 地域コミュニティづくり

不測の災害に対して行政ですべてを一度に解決することは難しく、ましてや行政も機能しない事態が起こりえます。事実、阪神淡路大震災では瓦礫の中から救助された人のうち、2割は公助(行政)、8割は共助(地域)の力で助けられました。この特集では平成23年新潟・福島豪雨災害時の対応と、過去の災害経験で学んだ各地域での取り組みを通し、災害にも強い地域コミュニティづくりを考えます。

平成23年7月 「新潟・福島豪雨」の発生状況

前線が、朝鮮半島から北陸地方、関東甲信地方を
通って日本の東にのび、停滞したため、前線に向
かって暖かく湿った空気が流れ込み、新潟県から福
島県会津にかけて次々と発達した雨雲が流れ込み
ました。新潟県や福島県では、29日昼前から局地的
に80ミリを超える猛烈な雨が断続的に降り、新潟
県加茂市宮寄上で総雨量623.5mmを観測するな
ど、平成16年7月新潟・福島豪雨を上回る、記録的
な大雨となりました。長岡市においても、市内全域
で非常に激しい降雨があり、栃尾地域梅野俣観測
所で期間累計雨量550mmを観測しました。このた
め、市内を流れる各河川水位が上昇し、信濃川を含
む5河川が、はん濫危険水位を超え、川口地域では
魚野川で堤防から水があふれるなど、市内各所にお
いて土砂崩れや浸水による被害が発生しました。

人的被害	
死亡 0人、 重傷 0人、 軽傷 2人	
住家被害 (長岡市全体)	
全壊	4
大規模半壊	12
半壊	24
一部損壊	2
床上浸水	198
床下浸水	1,951
合計	2,191



実際に各地域ではどんな

表町1丁目



五十嵐正義さん
表町1丁目 前町内会長

若手の少ない町の現状

7月30日は午前7時くらいに目が覚め、外を見てみると一面水浸しになっていました。車が通るたび波がシャッターなどに当たり壊れている家もありました。避難所のコミュニティセンターは遠く、人によっては場所すらも分からない人もいますので、ほとんどの人が行っていないと思います。私が町内の高齢者世帯の安否確認を行いました。自主防災会としての動員はありませんでしたが、自発的に集まった数人で車の誘導等を行いました。

私の住む町は、昔から住んでいる人がほとんどなので顔見知りではあります。約100世帯あるうち、60代以下の世帯はわずか10世帯ほどです。若手に頼ることが出来ない代わりに、介護保険のデイサービス施設などが支えになっています。むしろ、町内会に入っていないマンションは全くつながりも無いので、誰にも気づかれないことがあると思うとそちらのほうが深刻なのかもしれません。表町は町や行政に近いので危機感は薄いのだと思います。しかし、10年後はどうなるのだろうと考えることはあります。

状況だったのか。旧長岡市内の中心部での対応をまとめました。

春日2丁目



藤川 茂さん
元町内会長・現民生児童委員

普段のコミュニケーションが自主防災を支える

昨年の水害では、長岡市内で浸水被害が一番多かった町内会です。高齢者世帯が多い町内を安否確認と被害状況把握のために、町内会長はじめ役員、民生委員はいち早く動きました。水を含み重くなった量や家財道具の運搬には若手の青年会が力を発揮してくれました。

中越大震災で町内会の助け合いが強まり、各家庭には町内会の避難所を記した地図を配布し、裏には緊急時に連絡してほしい番号を記入して電話の脇などに置いてもらっています。また、災害時に援護を必要とする家庭には自己申告をしてもらい、緊急時にすぐに役立って仕組みづくりをしています。普段から何気ない声かけやコミュニケーションが、災害時にも大いに役立っています。



四郎丸



長藤 潔さん
四郎丸コミュニティ
センター長



土田荘吉さん
防犯四郎丸支部長
四郎丸地域自主
合同防災会本部長

地域の拠点、安心できるコミュニティセンター

四郎丸地区は栖吉川と福島江、柿川に囲まれ、水害の起こりやすい地域です。昨年の豪雨災害の時は、早朝から川の様子を見に行き、防犯四郎丸支部(防災部も含まれています)とコミュニティセンターとで冠水した道路や河川の状況を共有しました。栖吉川には地域の住民も様子を見に来ていました。

コミュニティセンターでは、いざという時に、地域の情報発信基地として防犯や防災のためにコミュニティセンターの一室を提供することを考えています。コミュニティセンターの使い方をもっと住民目線で考え、地域の人々が安心して集まれる場、情報の集まる場など地域の拠点として、普段から住民同士の顔が見えるよう四郎丸地区ではコミュニティ活動に力を入れています。

特集② 災害にも強い地域コミュニティづくり 地域団体での取り組み

平成23年度の水害を通して、うまくいったこと、これからの課題などが見えてきました。

それでは、地域防災力をどうしたら強くすることが出来るのか。災害時における地域コミュニティは各地域ごとに特色があります。多くの地域から一部ではありますが、ご紹介をさせていただきます。



失敗と改善で強まる絆

青葉台三丁目自主防災会 運営委員長 神田英一朗さん

私たちが住む町内は長岡ニュータウンにあり、平成4年から居住が開始された新興住宅地です。防災会は平成10年に「自分たちの町は自分たちで守ろう」ということで発足しました。

私たちの町内では、平成11年から避難時に玄関先に赤旗を掲示してもらい、その掲示がない家に救出に向かうことになっています。また、町内にアンケートを行い、支援を希望する人を地図へ掲載し、世帯主と打ち合わせをして救助カードを作成しています。

避難訓練も、ただ決まったことをこなすのではなく、「失敗してこそ本番に生きる」という信念で「まずはいろいろやってみよう!」そして駄目だったら「どこが改善点なのか、それともやめたほうがいいのか」などいろいろ試しています。災害はいつ起こるかわからないの

で、訓練は夜間訓練や雪中訓練などもやっています。

日ごろから顔が見えるように付き合いも盛んに行われています。各班に町内会から懇親会のための補助金が出ているので、避難訓練後の反省会はもちろん花火大会やバーベキューをしながら懇親を深めています。そうすると、どこに誰がいて、どんな特技を持っているかもみんなで共有することが出来ます。そんなつ



ながりは町内だけではなく、中越大震災の際には山古志の方の仮設住宅が青葉台地区に建設されたことから「山古志応援団」を結成しました。引越しボランティアをしたり、山古志の皆さんと休耕田を借りて一緒に田んぼでお米を作ったり、近隣地域の酒造メーカーの協力を得て05年3月に山古志地区住民のために「山古志復興応援の酒」も販売されました。深まった絆は、山古志と青葉台三丁目の交換交流として今でも続いております。



地域の宝を守るための結束

中之島 上通地区中興野自主防災会 防犯事務局長 高橋一寿さん

上通地区は水田や蓮田が広がる300世帯に満たない農村部と600世帯を超える新興住宅地が混在した所です。ある時、地域で不審者が出たとのことで、平成16年秋より小中学生の通学路を中心に個人所有の自動車を「防犯パトロールカー」として使用し、巡視活動に取り組んできました。そして、「交通安全」「自主防犯会」「自主防災会」を自治会では全てリンクして



いると考え、平成17年11月に「長岡市上通地区連合防犯組合」を発足しました。「青色防犯パトロール」の承諾を民間としては県内で初めて受け、平成18年1月に出発式を行いました。

いつもパトロール車で黒条、信組、今町、中之島の小中学生の登下校の巡視活動をし、地域の老人会も協力してくれています。子どもたちは青パトを見ると喜んで手を振ってくれます

し、親御さんも「ご苦労様です」と声をかけてくれます。

また、有難いことに防犯パトロールに対して各世帯から年間300円の運営費や地域企業の皆さんからも寄付を頂いております。中興野自主防災会は上は78歳から下は25歳まで世代も多様です。毎月メンバーが集まり夜な夜な地域づくりについて

防災事務局長 鈴木安博さん

熱い議論が繰り広げられています。といっても、飲みながら子どもたちを楽しませるイベントなどを考えているんです。新興住宅地なので、子どもが多い。子どもを楽しませると大人も楽しめる。そうするといい若手が見つかって、自主防災会に入ることにより親密なお付き合いになっていくんです。

平成16年7月13日の水害では組織力が無く悔しい思いをしました。みんな、人のために何かをしたいという思いがあり、いつの間にか救命救急士の資格を取ってくる仲間もいるんです。「地域の宝である子どもを守りたい。」という思いから私は声を出しました。「変人といわれてもいい、見てくれる人が一人でもいい。」ここまでの組織になったのもみんな仲間のおかげです。そんなところから始まった組織です。



地域がつながる仕掛け

日越コミュニティセンター長 宮下貞昌さん

日越地域は約3500世帯あり、古くから住んでいる方と新興住宅地が入り混じっています。地域コミュニティの筆頭として日越コミュニティ推進会議があり、児童育成、社会福祉、生涯学習、スポーツ健康、地域安全を部会で設け、地域のことの議論を毎月集まって話し合いをしています。

私は、地域コミュニティの根幹となるのは地域の安全安心と考え、そのためには、「人が繋がる、世代が繋がる、地域が繋がる」すなわち、



顔が見える地域づくりこそが地域防災力も高めると考えています。

昨年度の冬は日越地域も大雪に見舞われました。消火栓や防災倉庫もすっぽりと雪で埋もれてしまいました。そこで、中学生の力を借りようということになりました。日越地域は西中学校区になります。その西中学校には「すこやかな子どもを育てる会」があります。そこで日越地域として「運動会」「防災」「除雪」をテーマに学校へ中学生をボランティア活動してみませんかと言わせてもらいました。消防団にもこの話をしたところ両者ともぜひひやろうということになりました。

地域の人を知るために、日越コミュニティ推進会議がもっとも力を注いでいる行事は運動会です。今年は参加者だけで約2,000人の参



加があり、中学生ボランティアも80名が参加しました。おかげさまで今年で60回目を迎えることができました。参加人数が少なくなった時期もありました。その時には「どうしたらみんなが参加してくれるか?」を考え、年齢別の種目や、ハンディキャップをつけたりとみんなが楽しめる運動会にしたところ、参加者が増えました。毎年多くの世代が交流できるように知恵を出し合って、種目も多種多様になってきています。運動会だけでなくいろいろなイベントに参加してくれるようになると、地域の人が分かり、特徴や特技なども分かってきます。

災害にも強い地域コミュニティづくりを広めるには

取材を進めていくうちに各地での取り組みが進んでいるところ、これからのところ様々であると感じました。災害にも強い地域コミュニティづくりを広めるにはどうしたら良いのか、これまでも様々な地域に入って住民の方と一緒に考えてきたお二人にお聞きしました。



つながりこそ最大の備え

●中越防災安全推進機構
チーフコーディネーター 河内 毅さん

被害が大きい場合や高齢化が進んだ地域では、自分たちで出来る自助、共助にも限界があります。こういった場合、外からの支援を積極的に受け入れることも必要になってきます。支援の受け入れとは、自分たちだけでは対応しきれないことを他の地域やボラセン・行政などに発信し、支援を依頼することです。ただし、支援者はほぼその地域のことを良く知らないで、その窓口・調整役を務めてくれる地域リーダーの存在が重要かつリーダーを支える地域の

体制やつながりも大切です。平時から地域の防災力を高めるには、防災訓練や地域行事などにより自助・共助の力を高めるとともに、災害時に自分たちで対応しきれない時に外からの支援を受け入れる体制をつくることも大切なのです。

中越防災安全推進機構では、地域の皆さんと一緒に地域の防災を考えるワークショップなども実施しています。防災活動について疑問や相談等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。



自主防災組織が有効に 防災・減災に役立つために

●長岡造形大学 准教授 澤田雅浩さん

近年自然災害が頻発しています。大きな被害も生じています。それを反映して各地では自主防災組織の活性化の必要性が叫ばれています。

今回取り上げられている地区での活動を見ると、まさに千差万別です。それは地域の状況、そして想定する災害によって備えが異なるということを表しているともいえます。

防災・減災対策に王道はないのです。地域の実情をしっかりと把握することで初めて具体的な対

策が出てくるのだと思います。はいえ、さまざまな地域活動が行われる中、いつ起こるかわからない災害への備えに本格的に取り組むのもなかなか難しいでしょう。普段行っているさまざまな活動を違った視点から見れば、防災的な役割が見えてくることもあります。日常の活動に防災・減災の視点を付与するだけでも地域は少しずつ災害に強い環境を作り出すことができるのではないのでしょうか。

1 長岡まつり 大花火大会への協賛

今回は長岡まつり大花火大会への協賛について見ていきましょう。協賛というと、寄付とは少し性質の違うものかもしれませんが、今回は「社会を変えるお金の使い方」として協賛金を捉え、長岡まつり大花火大会への協賛について見ていきたいと思います。

長岡市市政だより6月号によると、平成23年の長岡まつり全体での収入は5億1038万円となっています。その内訳は1億8896万円が寄付金(花火協賛やチケット販売による収入)からなっており、観覧席料として1億3946万円、長岡市や商工会議所からの補助金として1億6522万円(このうち1億3900万円は昨年7月30日に発生した新潟・福島豪雨被害による花火会場の復旧にかかる補助金)、その他諸収入が1120万円、前年度繰越金



が554万円となっています。表を見ると明らかなように寄付金の割合が全体の37%を占めています。次に多いのが観覧席料の28%です。この二つを合計すると全体の約75%が寄付金と観覧席料という市民からのお金により賄われています。昨年度は新潟・福島豪雨の影響で例年より多くの補助金が出ていますが、例年はこの被害による補助を除いた額が補助されており、全体の7%程度です。

平成23年 長岡まつり収支報告

収 入	5億1038万円
寄付金(花火協賛、チケットなど)	1億8896万円
補助金(長岡市、商工会議所など) ※このうち1億3900万円は、新潟・福島豪雨被害による花火会場の復旧にかかる補助金	1億6522万円
観覧席料	1億3946万円
諸収入	1120万円
前年度繰越金	554万円

支 出	5億1038万円
花火行事費	1億5233万円
災害対策費	1億3900万円
会場設営費(観覧席、トイレ、ゴミ処理)	1億9万円
安全対策費(警備員、案内看板、シャトルバス)	6982万円
広告宣伝・事務経費(広告、テレビPR、ポスター)	2767万円
前夜祭・昼行事費	1832万円
次年度繰越金	315万円



また、長岡まつり大花火大会に対してできる支援は、協賛という形だけではなくありません。長岡花火の目玉でもあるフェニックス花火に対しては、寄付つき商品を買うことで支援ができます。たとえば、パンや牛乳、ビールなどについている、あるシールを見たことはありますか？

「売上の一部をフェニックス花火に協賛いたします。」というシールです。このシールが付いている商品を買うことで、あなたは購入を通じてフェニックス花火の打ち上げに関わることができるのです。

寄付という身近でない、自分とは関係ない世界と思われがちですが、自分の身近に「寄付」という行為が潜んでいるのかもしれない。ぜひ近くのスーパーで探してみてもいかがですか。

3 商品を買うことで寄付

連載 月刊寄付白書

あたたかい協賛で支えられている
長岡まつり大花火大会

2 長岡市民28万人、 皆の力で運営する花火大会

では、集まった協賛金は何に使われるのでしょうか？

集まった協賛金は、花火の打ち上げ代金に使われることはもちろん、花火大会運営全般に使われます。たとえば、前夜祭や昼行きのイベントに使われたり、花火大会開催の安全対策に使われたり、ゴミ箱や簡易トイレ設置に使われたりしています。毎年80万人もの人が訪れる花火大会ですから、安全に運営をするためには欠かせないことだと思います。

ここで少し想像してみてください。8月2日、3日の夜に上がる花火を長岡市民の皆

の力で打ち上げていることを。たった1人の力では、あれほど大きな花火は上がりなかつたでしょう。しかし、長岡市民28万人からのあたたかい支援があるからこそ、私たちの誇りである長岡花火は上がり、当日安全に花火大会が運営されているのです。



【訂正】6月号に誤りがあったため、訂正させていただきます。申し訳ありませんでした。(誤) 渡里町で旅館業を→(正) 表町で旅館業を



【長岡バル街とは】 本場スペインのバル文化をアレンジして、これまで函館で「函館バル街」が行われていたものを長岡版にアレンジして、みんなの「行きたかった名店、知らなかったこんな店」に参加してもらい、気軽にに行け、楽しめるイベントとして開催しました。

【当日のデータ】
●参加店舗 63店
●参加者 約2,500人(チケット販売数1600枚)
●当日のスタッフ 30人(ほとんどがボランティア)

長岡バル街裏側レポート! 2012.6.1 in長岡駅周辺

出店者の思い1

FATO(フェイト)さん

長岡バル街と聞いたときは、よくわからなかったですが、主催者側の熱い思いに惹かれ参加してみました。当日始まるまでは、半信半疑で本当にお客さんが来てくださるのが心配でしたが、いざ始めてみたら本当にたくさんのお客さんが来てくださりました。残念ながらお断りしてしまった方もいましたので、次回があれば、私達も「作戦を立てなくては」なんて思いました。このような機会に参加させて頂き新たなつながりができたことは本当に良かったことだと感じました。

出店者の思い2

かも川本館さん

「バル街をきっかけに気軽に足を運んでいただける」それが魅力でした。このイベントをきっかけに皆様から気軽に利用していただけたら幸いです。当日もたくさんのお客様からお越しいただき本当に感謝しております。

参加者の声1

友達を誘って7人で参加しました。みんなで地図を広げどこに行くか、どのように回るか作戦をたて、行ったことのないお店を中心に回りました。予想以上にたくさんの参加者がいることにびっくりしながら、楽しんでいました。次回もぜひ参加したいです。

参加者の声2

最終バスで帰宅中、バル街の同級生に会いました♪楽しかったです!バル街、仲間も大絶賛でした!!第2弾、楽しみです♪、(´▽´)/今回訪れたどのお店も、お酒お料理美味しかった! 近くに座ったご夫婦や女性グループとどこ行きましたか? と会話したりの交流も楽しかった。お店の人はどこも凄く忙しいにしていたけど、またこの企画はあるといいなあ。

こんな活動も 市民協働!!

バル街のときに市民レポーターがツイッターやフェイスブックを使い口コミをレポートしたら楽しいのではと、市民の方が、「バルレポ隊」を集め、当日の口コミ投稿サイトを作って発信していました。たくさんの情報がアップされ、一人ひとりの市民の力で、情報が出来る事もスゴイ!と感じました。こんな、一人ひとりの小さな力が集結する事がまさに市民協働ですね。

バル街への思い

まちなか考房 大沼さん

まちなか考房は、まちなかを舞台にしたまちづくりのプラットフォームを目指し10年目を迎えました。まちなかならではの良さを伝えたい、知って欲しいと思っていた中、昨夏に「バル街」のイベントを知り、函館バル街に参加しました。

参加者が笑っている、お店もそして街が笑顔であふれている感を実感し、主催者の深谷シェフから企画やコンセプト、運営のお話を伺い「これは絶対長岡でやりたい!!」「まちなか考房のこれまでの活動の集大成だ!!」と、まちなかの活性化、参加者がマップを手に取り街を歩きにぎわう!そんなバル街イベントを実施、継続していきたいと立ち上がりました。

取材レポーターの感想

当日は本当にまちが賑わっていました!そして楽しかったです!バルという同じ目的で、沢山の人がまちにでて、見知らぬ人に気軽に声をかけれる、何か不思議な空間でしたね。なかなか人とのつながりが薄れてきたといわれる現代でも、目的が同じなら「みんな仲間になれる」という事が実証できた気がします。次回のバル街ではどんな協働が生まれるのでしょうか?

ながおかバル街運営委員会 NPO法人まちなか考房
☎0258-36-3240 FAX.0258-36-3247
http://www.2.nct9.ne.jp/tmc/nagaoka/
次回10月末頃を予定。お楽しみに!
ながおかバル街HP▷ http://www.e-netcity.jp/nagaokabar/

協働のまちづくりの潮流

人類を救う
長岡の思想

第2回「世界に誇る長岡の思想『互尊独尊』」

長岡の歴史が積み重ねてきた協働の思想と実践を学ぶこのコーナー第2回は、「互尊独尊」という長岡の固有思想を取り上げたいと思います。「互尊独尊」は、市民協働条例検討委員会の中でもたびたび飛び出してきた言葉です。この言葉の中に、長岡が培ってきた協働のまちづくりにつながり思想があるのではないのでしょうか。

この互尊独尊という言葉を世に伝えた野本恭八郎は、長岡市民であれば言うまでもない事ですが、「互尊文庫」と創設者です。野本は、後世にこの思想を伝えるため「互尊文庫」をつくりました。恭八郎が互尊独尊を唱えるようになったのは、明治33年、49歳の時であったと言われています。

この「互尊独尊」の意味は、「互尊独尊は人がいかに生きるべきかがテーマであり、宇宙で唯一生きている独尊と、社会と一緒に生きようとする互尊が大切である。それはまた独尊なくして互尊なく、互尊なくして独尊はない。互いを大切にすれば、争いごとはなくなる」と一般的に説明されます。市民協働条例検討委員会の羽賀友信委員長は、互尊独尊が協働のまちづくりに通じる意味として「人を活かすことが、自分を活かすこと」と説明されます。自分も含め世の中の人々は、1人として同じ人がいない、多様なものです。その多様な人を活かす事こそが協働のまち

づくりにとって重要なことです。さらに羽賀委員長は「多様な課題には、多様な人の協力でしか解決しえない」と説明されます。

この「互尊独尊」という言葉は、野本の様々な経験や様々な思想を学んできたことからたどり着いたものです。そのことからこの言葉の解釈は難しく、また多くの人によって様々な解釈がされてきたという面もあるようです。この言葉を読み解くためには、野本の歩んできた人生を学ぶ必要があります。野本に大きな影響を与えた1人に、曹洞宗の僧である大道長安という人物がいます。仏教と言うと家族を捨て出家をし、座禅を組み孤独の境地の中でいかに生きるべきかを悟る・・・そんな印象を持っておられると思います。しかし大道長安は、「仏教は孤立独尊するのではなく、多くの民衆とともに生き、現世で苦しむ人々を救うことにあり」と主張しました。また大道長安が創設した大道校の綱領には「志を遂げるためには耐え忍び、謙譲の精神を持ち、勉学に励めとあったのだ。そのためには人の過失を責めてもいけない。酒色におぼれてもいけない。まして他人を誹謗したり、礼節を忘れてはいけない」と書かれている。社会から孤立したところではいかに生きるかを考えてもしょうがなく、社会の中で他人と関わり、他人を尊重しいかに生きるかを考える必要であることを学んだ

のではないのでしょうか。また、当時の長岡は、石油景気の真っ只中で、東山油田には次々と石油槽が、中島には製油所が乱立し、町では石油株が売買されていた。この長岡の石油景気は、新潟県の経済を引っ張っていくほどでありました。しかし、この時勢は皆金儲けに走り、互いにいがみ合うことようなことも各地で起こりました。そのこともまた、互いに敬意を払い、共存していかなければいけないという気持ちを生んだのではないのでしょうか。

以上の事から私なりに解釈すれば、まずは自分がこの長岡で豊かに暮らしていくためにどんなことができるのかを学び、考えることが大事です。しかし他の人が考え実行していることを尊重せずに、自分はこう考えている、と主張してもそれは独善的なものでしかありません。人を尊重する気持ちや姿勢を持って、人の個性を活かしてこそ、自分の考えや行動も生きてきます。それが争いのない共存共栄の社会を作っていく上で大事な思想だということではないのでしょうか。野本の「互尊独尊」の思想は、もっと深くそんな簡単な意味ではない、またもっと別な経験や思想が影響を与えているというようなご批判は承知の上で、思い切って「互尊独尊」について考えてみました。ぜひ様々なご意見を寄せていただければと思います。よろしくお願いいたします。

Mascot Character

市民協働センターマスコットキャラクター 1次審査結果

上位
3作品

この中から投票により1つ選出。マスコットに採用されます。残りの2作品は金賞、銀賞となります。



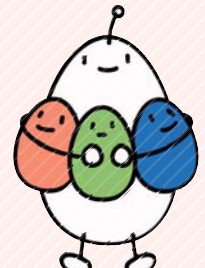
大野 沙耶花
長岡市

【作者のコメント】元気で明るい卵のイメージで考えてみました。リボンはフェニックスの羽、服のマークは花火と米(米百俵)です。



田中 翠恵
長岡市

【作者のコメント】このマスコットには、新しい生命がうまれる瞬間のあたたかな思い、これからの未来につながる人と人の思いをこめてあります。



小柴 雅樹
兵庫県宍粟市

【作者のコメント】生みだす・繋がる・育てるをあらわす3つのたまごを抱えてるたまごです。頭には情報発信をあらわすアンテナをのせています。

入選
10作品



沢田 克也
埼玉県狭山市



深谷 智将
千葉県茂原市



三巻 保征
三条市



タナカ マサオ
小千谷市



長橋 正樹
東京都杉並区



岸本 啓子
長岡市



高木 政成
長岡市



伊佐 杏奈
長岡市



大掛 彩香
柏崎市



柳町 美幸
長岡市

たくさんのご応募ありがとうございました！

みんなで選ぼう！ 協働マスコットキャラクター！

市民協働センターは、たくさんの市民の方と一緒に新しい活動の『たまご』を生み、みんなで育て、活動の輪がどんどん広がっていくようにサポートする場所です。そこで、協働センターをPRするマスコットキャラクターを作成中。みんなで選んで決めましょう！たくさんのご応募の中から選ばれた上位3つの作品のうち、気に入ったキャラクターを選んでください。投票方法は以下のとおりです。

- **ポスター投票** 以下の場所で掲示されているポスターに、3つのキャラクターが載っています。ポスター備え付けのシールを気に入ったキャラクターの投票枠内に貼ってください。
【ポスター掲示場所】 市民協働センター、市民センター、子育ての駅、各支所 ほか
- **インターネット投票** 市民協働センターのホームページにあるキャラクター投票特設ページにアクセスし、気に入ったキャラクターの「投票」ボタンを押してください(連続投票は反映されません)。
【ホームページURL】 <http://nkyod.org/>

【投票期日】平成24年7月7日(土)から8月5日(日)まで(公共施設は開館時間に限りです)

【投票結果】8月24日(金)開催のイベント「のもーれ!長岡」内にて
※詳しくは「ながおか市民協働センター」HPをご覧ください。

主催・
問い合わせ先

市民協働センターPRオープニングイベント実行委員会
ながおか市民協働センター内 (長岡市大手通1-4-10 アオーレ長岡西棟3階)
Tel.0258-39-2020 Fax.0258-39-2900 E-mail kyodo-c@ao-re.jp
URL <http://nkyod.org>

みなさんの投票
お待ちしております！

Special
Thanks

●長岡市市民活動団体助成事業
写真撮影
海津優里さん
(長岡造形大学4年)

●防災にも強い地域コミュニティづくり
写真撮影
長田貴之さん

ご寄付
ありがとうございました

ご寄付者:連合中越様
金額:20万円
先の5月1日メーデーに開催された連合中越地域協議会にてご寄付を承りました。このご寄付は市民活動の援助のため、大切にさせていただきます。

編集後記

今回特集①で取り上げた「市民活動団体助成金」は、市民協働センターの活動を凝縮した非常に中身の濃いものでした。本文でも書いてあるとおり、市民活動団体と市民のコミュニケーションの場をつくり、その市民活動団体の活動に共感し、ボランティアや寄付、事業への参加などの形で支えてくれる人を1人でも多く作れないかと考え様々な工夫をしました。市民協働センターが行っている人材のネットワークを作る事業、市民団体のファンドレイジング(資金獲得)を支援する事業、これらの事業の根本には、この市民活動団体と市民、市民活動団体同士のコミュニケーションを促進し、多くの市民にまちづくりに参加する機会を提供しながら、様々な課題や夢に向かって活動をしている団体のファンづくりをしていくことなのではないかと考えています。この考え方を肝に、市民協働センターとして活動をしていきたいと思っています。

らこら FREE

2012.7.10(vol.4)

【発行】
ながおか市民協働センター
市民協働センターPR
オープニングイベント実行委員会

〒940-8501
長岡市大手通1丁目4番地10
シティホールプラザ アオーレ長岡
西棟3F ながおか市民協働センター

Tel.0258-39-2020
Fax.0258-39-2900
Mail. kyodo-c@ao-re.jp
URL. <http://nkyod.org>